

## 令和4年度第3回狭山市社会教育委員会議 会議録

開催日時 令和5年3月14日(火)  
13時30分から16時15分まで

開催場所 狭山市立教育センター 大研修室

出席者 横山委員 石塚委員 八瀬邊委員 今福委員  
角田委員 齋藤委員 黒川委員 小熊委員  
恵比須委員 中間委員 河口委員 橋北委員  
菅野委員 田中委員 平岡委員 上西委員  
田ノ上委員

欠席者 鈴木委員・佐野委員・中谷委員

事務局 内藤生涯学習部長 内出中央公民館長 加藤中央図書館長  
石井社会教育課長 松川 三浦 小暮 山口

傍聴者 0名

---

### 1 開 会

### 2 あいさつ 議長及び生涯学習部長

### 3 議 事

#### (1) 報告事項

##### ア. 令和4年度狭山市二十歳の集いの結果について

資料に基づき、令和5年1月8日(日)に開催した令和4年度狭山市二十歳の集いの結果について事務局から説明。

委 員 新型コロナウイルス感染症感染拡大による、出席率の減少等の影響はあったか。

事務局 ここ数年の出席率は70%前後で推移している。新型コロナウイルス感染症感染拡大による大きな影響は生じていない。

委 員 式典を2部制としたのは今年度からか

事務局 昨年度は3部制で開催したが、新型コロナウイルス感染症の状況等から判断し、今年度は2部制での開催とした。

委員 新型コロナウイルス感染症感染拡大により、式典が中止となったケースはあるか。

事務局 新型コロナウイルス感染症感染拡大による中止となったケースは無いが、令和2年度については、開催日を1月から11月に延期し、式典を開催した。

イ. 令和5年度狭山市教育行政の取り組みと重点について

会議資料に基づき、令和5年度狭山市教育行政の取り組みと重点のうち、生涯学習分野について事務局から報告。

委員 地域学校協働活動のモデル学区（2カ所）の選定は完了しているのか。

事務局 コミュニティスクールを導入し、学校運営協議会の設置が進んでいる学区の中から、地域学校協働活動の受入れ可能な学区の選定準備を進めている段階である。なお、モデル学区は2カ所としているが、受け入れ可能な学区がそれ以上ある場合は、同時に進めていきたいと考えている。

委員 具体的な学校の選定はこれからということか。

事務局 コミュニティスクールを導入している学校に説明等は行っているが、具体的な選定については調整中である。

委員 公立中学校の部活動の地域移行について、狭山市での計画の策定や議論はされているのか。

事務局 休日部活動の地域移行については、国からも令和5年度から令和7年度の3か年を集中的な推進期間とする指針が出ているところである。

全国的にはモデル校やモデル自治体による実践を重ねている中で、費用負担の問題や指導者の確保など様々な課題が見えてきた状態である。

狭山市では地域の受け皿が整わないと地域移行も難しいと考えている。

スポーツに関する事業は、スポーツ振興課と地域のスポーツ団体が連携しているが、地域移行についてもスポーツ団体が受け皿を担ってもらえるかや、学校部活動の今の実態や考え方について、教育指導課を通じて捉えながら教育委員会としての議論を始めたところである。

令和5年度については狭山市のありかたについて、学校関係者を交えて協議していきたいと考えている。埼玉県の説明会や今後の取組みの指針等が示されるという話もあるので、子供や学校運営、そして地域のためになるような地域移行ができるように考えていきたい。

委員 資料に掲載されている事業の中で、新規の取組みと重点的な取組みはどれか。

事務局 公民館は、公民館学習サークルによる地域貢献活動の促進を重点的に取り組む事業としている。図書館では今年度より一般奉仕による様々な展示やSNSでの発信に取り組んでおり、令和5年度も引き続き力を入れて取り組んでいきたいと考えている。

委員 生涯学習の機会や場の充実として子供から高齢者まで、また障害の有無に関わらず、誰もが主体的に参加できる学習機会の充実を図るとあるが、どの様に若い世代の利用増加を図っていく考えなのか。

事務局 親子参加型の事業を週末に開催し、若い世代が公民館に来る機会を増やすことで、公民館という活動の場を知ってもらうとともに、若い世代の公民館を利用した独自の活動へとつながるような事業としていきたい。

議長 地域学校協働活動のコーディネーターと推進員の違いは。

事務局 コーディネーターは役目であり、推進員は役職名だと考えているが、両者は同じものであると考えている。

#### ウ. 各委員からの活動報告

各委員から日頃の活動についての情報交換。

#### (2) 協議事項

##### ア. 狭山市における地域学校協働活動について

会議資料に基づき、狭山市における地域学校協働活動について事務局より

説明し、「子供達の“ふるさと意識”を醸成するために、どのように地域学校協働活動を進めるか。」をテーマに複数回の協議を行うこととし、グループによる討議を行った。発表内容については下記のとおり。

#### Aグループ

- ・ 小学校の社会科副読本「さやま」を活用し、ふるさと意識の元となる知識の獲得
- ・ 入間川七夕祭りや地域で開催されるお祭りへの参加を促すことにより地域の大人との交流を図る。また、未成年だけでなく、20代以上の若者にも参加してもらい、未成年と成年と大人の流れを作っていくことが大事なのではないか。
- ・ 中学生に祭りの実行委員として参加してもらい、その提案を大人がまとめ上げ一緒に祭りを作り上げる。
- ・ 模擬店への参加
- ・ デジタル連絡ツール「スクリレ」の利用による学校情報の地域への発信
- ・ 市の特産品である「狭山茶」を始めとした地元の農業体験や、狭山市の無形文化財である「狭山市笹井豊年足踊り」の参加体験を通じた地元の魅力の再発見
- ・ 既存の市の財産（芸能、産業等）を改めて発掘し、新たな気付きを得るとともに子供達の自信の獲得に繋げる。
- ・ 自然環境の良さについて知らせる。
- ・ 市の広報誌に掲載されている狭山市の民話や伝承について、年配の方に語ってもらう。
- ・ 河川の清掃活動を通じた意識の変化。

#### Bグループ

- ・ 友人や他学年、大人など色々な人と触れ合い、色々な経験を積んでいくことが大事だと思う。
- ・ 狭山市は茶どころとして有名だが、諸事情により茶摘み体験を実施したくても実施できていない学校がほとんどである。人手が足りないために実施できていないケースなどは、高齢者ボランティア等を活用することによる実施が可能となることも考えられる。体験事業のなかでも茶摘み体験は是非実施してほしい。
- ・ 我々の想像よりも小学生の能力は高いと思う。小学校1年生の頃から運動会や遠足、地域のお祭りなどについての意見や考えを聞くということが、大人の既成概念を打ち破るきっかけになると思う。
- ・ 地域のイベントは子供を中心とした実行委員会形式で進めていく。最初は難し

いと思うが、軌道に乗っていけば素晴らしいものができるのではないかと思う。

- ・ 地域のお祭りなどは大規模なものでなく子供が運営に関われるようなコンパクトなものを行うのが良いのではないか。
- ・ 子供達に自己肯定感を持ってもらうことが大事であり、それを子供が身に付けられる仕組みや仕掛けを大人がどれだけ用意できるかということが一番大事だと思う。
- ・ 自分が生まれ育った地域を好きになるような思い出を作っていくことが大事であり、子供と一緒に大人も地域の歴史や民話などを学んでいくことが必要だと思う。市制施行60周年の時に開催された、狭山市がなぜ狭山市という名称になったかということ盛り込んだ狭山市の歴史についての講座が印象に残っている。

#### Cグループ

- ・ 子供達が安心して学べる環境づくり（登下校の見守りなど）
- ・ 子供達が主役となれる学習体験やキャンプ体験。
- ・ 共働きが当たり前となったことから家庭だけでの子育てが難しくなっており、地域の方に助けていただきながら、地域の子供は地域で育てるという形になるのが理想だと思う。
- ・ 子供達を活動の中に取り込みながら、彼ら、彼女らが楽しいと思えるような活動を大人がサポートしていければよいのではないか。
- ・ 狭山市で育った子供が成長し、狭山市で就職や子育てができるような環境を整えていくのが現在の大人の役割であると思う。

#### 4 事務連絡

令和5年度第1回社会教育委員会議の予定について事務局より連絡

#### 5 閉 会

石塚副議長からあいさつ